

## EUR / USD ユーロドル 月次レポート

前月振り返りと2026年6月の相場展望

発行日

June 1, 2026

対象期間

5月実績 / 6月展望

通貨ペア

EUR / USD

発行頻度

Monthly

5月末レート（終値）

1.16564

▼ -0.64%（5月月間騰落）

5月高値

1.17965

5月安値

1.15761

ECB金利

2.00-2.15%

FED金利

3.50-3.75%

## 今月のハイライト

5月は1.1731からスタートし1.1656へ下落（月間-0.64%）。5通貨ペア中唯一の下落となり、米ドル優位が継続

米国の4月CPI（前年比3.8%）高止まりとWarsh新Fed議長（5月22日就任）のタカ派スタンスがドル高を支え、月末にかけて1.1576まで押し戻された

ECBは4月30日に政策金利を据え置き（預金金利2.0%）。しかし6/11会合での0.25%利上げを市場が60~70%の確率で織り込み始めている

6月は6/10 米CPI → 6/11 ECB → 6/16-17 FOMC（政策発表は日本時間6/18早朝3時）という怒涛の3連続イベント。ユーロドルの方向性が大きく決まる月となる

6月 基本シナリオ レンジ

1.150 - 1.175

3連続イベント（CPI・ECB・FOMC）次第（確率45%）

欧米政策金利差

約-1.50~1.60pp

ECB基準：ECB金利 - Fed金利（マイナス=ドル優位）。ECB利上げで縮小の可能性

始値

1.17308

5月1日

高値

1.17965

月中最高値

安値

1.15761

月中最安値

月間騰落

-0.64%

-0.00744

## 5月の相場動向

5月のユーロドルは1.1731でスタートし月末1.1656へ下落（月間-0.64%）、5通貨ペア中唯一の下落。月初は1.1797まで上昇する場面もあったが、米国のインフレ高止まりとWarsh新Fed議長のタカ派スタンスがドル高を支え、月末にかけて1.1576まで押し戻された。

ECBは4月30日会合で**政策金利を据え置き**（預金金利2.0%・主要オペ金利2.15%）。ラガルド総裁は「利上げ議論が現実的」と述べたが、欧州製造業PMIの悪化や中東起因のエネルギーコスト高が成長下押しリスクとして意識され、**ユーロドルは上値が重い展開**が続いた。米5月CPI（6/10発表）を前に方向感を欠く状態で月を終えた。

## 主要イベントの影響

### us FED / WARSH議長 スタンス

4月29日FOMC：3.50～3.75%を据え置き

Warsh議長**5月22日就任**。「インフレ目標達成まで利下げせず」

ドル高を支え、ユーロドルは1.16台へ押し戻し

### eu ECB 4月30日会合

預金金利**2.0%・主要オペ2.15%**を据え置き

ラガルド総裁：「利上げ議論が現実的」と発言

6月11日会合での0.25%利上げを市場が60～70%織り込み

## 5月の総括

5月のユーロドルは「**ECB利上げ期待 vs Fedのタカ派継続**」の綱引きで方向感に欠けた展開。米国のインフレ高止まりとWarsh新議長のタカ派スタンスがドルを下支えし、月間-0.64%の小幅下落。ECBの利上げ期待がユーロの下値を支えた。6月は**3連続イベント（CPI・ECB・FOMC）**が集中する重要月で、その結果次第でユーロドルの方向性が大きく決まる可能性がある。

## 6月の注目ポイント

6月のユーロドルは**3大イベントが集中する歴史的に重要な月**となる。①**6/10発表の米5月CPI**（Fedの政策判断の直前指標）、②**6/11 ECB政策会合**（0.25%利上げを市場が60~70%織り込み）、③**6/16-17 FOMC会合（政策発表は日本時間6/18早朝3時）**（Warsh議長初のドットプロット公表）の3つが連続して相場に影響する。ECBが利上げ（ユーロ高要因）でFedが据え置き（ドル安要因）なら欧米金利差が縮小しユーロドルは1.18~1.19方向へ。逆に米CPI上振れ+ECB据え置きならドル高で1.14台も視野に入る。

## シナリオ別レンジ予測

|    |     |                              |               |
|----|-----|------------------------------|---------------|
| 強気 | 30% | ECB利上げ・Fed据え置きで欧米金利差縮小、ユーロ優位 | 1.165 - 1.185 |
| 基本 | 45% | 両中銀据え置きでレンジ内推移。方向感に欠ける展開     | 1.150 - 1.175 |
| 弱気 | 25% | 米CPI上振れ・Fed利上げ示唆でドル高加速       | 1.130 - 1.155 |

## リスク要因

| リスク要因                | 確率 | 方向   | 概要・影響  |
|----------------------|----|------|--|
| ECBが6/11に0.25%利上げ実施  | 高  | ユーロ高 | 欧米金利差が縮小（ECB 2.25% vs Fed 3.75%→差1.50pp）。ユーロドルは1.18~1.19方向へ。ただし「材料出尽くし」で反落するリスクも |
| 米5月CPI（6/10発表）の上振れ   | 中  | ドル高  | 再度インフレ加速が確認されればFedの利上げ議論が浮上、ドル急騰でユーロドルは1.14方向                                    |
| Warsh議長がタカ派ドットプロット公表 | 中  | ドル高  | 2026年利下げゼロをドットプロットで示唆すれば米長期金利上昇・ドル高が加速   |
| 米イラン核合意の成立           | 中  | ユーロ高 | 合意なら原油急落→米インフレ低下→Fed利下げ観測でドル安・ユーロ高。1.20超えも視野                                     |

## 6月の見通し

基本シナリオは**1.150~1.175のレンジ推移**（確率45%）。ECBの利上げ確率（60~70%）がユーロに若干の優位性をもたらしており、**ECB利上げ+Fed据え置きが重なれば1.175~1.185方向への上昇余地**がある。反面、米CPI上振れはドル急騰トリガーとなり1.14台も視野に。6/10 CPI→6/11 ECB→6/16-17 FOMC（日本時間6/18早朝3時）の**3連続イベント週は極めてボラタイルな相場**となることが予想される。

### 用語解説

#### Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。現在3.50~3.75%。Warsh新議長が5月22日就任。次回FOMCは6/16-17（政策発表は日本時間6/18早朝3時）。

#### ドットプロット

FOMCメンバーが将来の政策金利の予測を「点（ドット）」で示したグラフ。年4回公表。6月のFOMCでは今年初のWarsh議長体制でのドットプロットが公表される予定。

#### 金利差 / パリティ

各国間の政策金利の差。EUR/USDではECB金利 - Fed金利で算出し、現在約**-1.50~1.60pp（マイナス=ドル優位）**。ECBが利上げするとこの差が縮小しユーロ高要因となります。

#### ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏の中央銀行。現在預金金利2.0%・主要オペ金利2.15%。次回は6月11日。市場は0.25%利上げを60~70%の確率で織り込み。

#### CPI（消費者物価指数）

家計が購入する商品・サービスの価格変動を測定する物価指標。米国4月CPI3.8%。6/10発表の5月データがFedの6月FOMCの判断に直結する。

#### ボラティリティ（ボラ）

相場の価格変動の大きさを表す指標。6月は3連続イベントが集中するため、ユーロドルのボラティリティが大幅に高まる可能性があります。

### 免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。